

# 女性の病気



宣言  
明るい笑顔  
すぐ返事  
伝える元気

かちどき薬品 ホームページ  
げんき君 健康に関する情報がいっぱい  
<http://www.genki1616.co.jp>

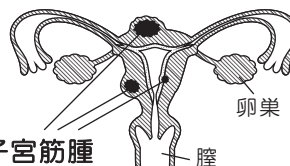
かちどき薬品グループ

## 女性の病気

女性特有の病気はさまざまありますが婦人科を受診することに抵抗があったり、他の人に相談しにくいなどの理由から病気の発見が遅れてしまうことも少なくありません。気になる症状がある場合はひとりで悩まずに早めに医療機関を受診しましょう。



### 子宮筋腫<しきゅうきんしゅ>



子宮筋腫

「子宮筋腫」は、子宮にできる良性の腫瘍です。成人女性の20~30%は子宮筋腫を持っていると言われており、30~40代の女性に多い病気です。

#### ■症状の出方はさまざま

筋腫ができる部位によって症状は異なりますが、代表的な症状に、経血量が増えたり、月経期間が長くなるなどの「過多月経」があります。また、月経痛や貧血、便秘、頻尿などもありますが、これらの自覚症状が出ない場合も多くあります。

#### ■子宮筋腫の治療法

基本的に良性の腫瘍なので、症状が無い場合は、特に治療はせず、経過観察をすることも多いです。治療が必要な場合は、鎮痛剤・ホルモン剤などの薬物療法と筋腫を除去する手術療法があります。

## 子宮内膜症<しきゅうないまくしょう>



「子宮内膜症」は、本来は子宮の内側にしかないはずの子宮内膜組織が、子宮以外の部位にできて増殖してしまう病気です。

子宮内膜とは本来、受精卵を受け止める役割をする粘膜です。月経の周期で増殖し、妊娠がないと剥がれて経血として排出されます。しかし、子宮以外の場所で増殖した子宮内膜は、排出されず、炎症や痛み、周囲との癒着を引き起こします。

### ■つらい月経痛が特徴

代表的な症状は、月経が繰り返されるたびにだんだんひどくなる月経痛です。市販の鎮痛剤が効かない、寝込むほどのつらい痛みがあるなどの場合は、ひとりで我慢しないで早めに婦人科を受診しましょう。



### ■子宮内膜症の治療法

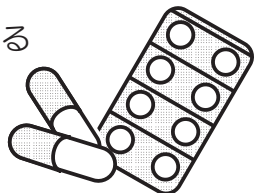
治療法には、薬物療法と手術療法があります。

#### ●薬物療法

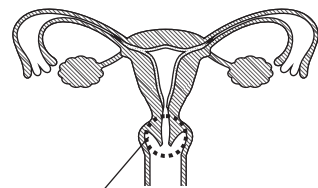
鎮痛剤を使って痛みをやわらげるほか、女性ホルモンの分泌を抑えるホルモン剤で月経を止めたり、低用量ピルで経血量を減らして、月経痛を軽減する方法があります。

#### ●手術療法

正常な組織を残し、病巣部のみを除去する「子宮内膜症病巣除去術」と、子宮を全て摘出する「全摘出手術」があります。



## 子宮頸がん<しきゅうけいがん>



「子宮頸がん」は、子宮の入口付近「子宮頸部」にできるがんです。子宮頸がんは遺伝に関係なく性交渉経験がある女性なら誰でもかかる可能性のある病気です。近年は20~30代の女性に急増しています。

### ■原因はウイルスの感染

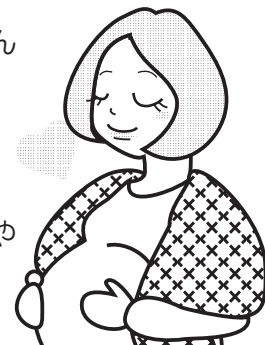
子宮頸がんの原因はヒトパピローマウイルス（HPV）の感染によるものです。多くの場合、性交渉によって感染すると考えられています。

### ■検診による早期発見が大切

子宮頸がんは、初期には全く症状がないことがほとんどで、不正出血やおりものの増加などの異常に気がついたときには、すでにかんが進行していることも少なくありません。ただし、検診によって早期発見しやすいがんでもあり、初期のうちに治療すれば、完治もしやすい病気です。

### ■子宮頸がんの治療

がんになる手前の状態や、ごく初期のがんであれば、子宮頸部の一部だけを切り取る手術（円錐切除術<sup>えんすいせつじょじゆつ</sup>）で済み、妊娠の希望を考慮することもできます。それ以上進行してしまった場合は子宮または卵巣、卵管を全摘出する手術やがん細胞を死滅させる放射線治療、抗がん剤を使った化学療法などを組み合わせた治療が行われます。

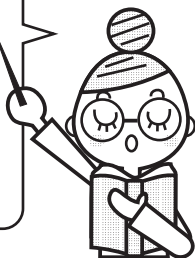


# 子宮頸がんは予防できる!

子宮頸がんは、がん検診とワクチンで防ぐことができます。

## ◆子宮頸がん検診◆

子宮頸がんは、早期発見が何より重要です。このがんは、HPVに感染してからがんになるまで6~10年かかるため、定期的ながん検診を受けることで、がんになる前に異常を発見することができます。20歳を過ぎたら、2年に1回は定期的な検診を受けることがすすめられています。



## 子宮頸がん検診の内容

### ●細胞診

やわらかいヘラやブラシのようなものを膣に挿入して、子宮頸部の粘膜を採取し、異常な細胞がないか調べます。

### ●HPV（ヒトパピローマウイルス）検査

子宮頸部から採取した粘膜の細胞にHPVが感染していないかを調べます。ただし、HPVはごくありふれたウイルスで、自然に排除されることのほうが多いです。

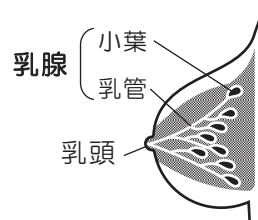
## ◆子宮頸がんワクチン◆

6か月の間に3回の接種で、発がん性HPVの感染を長期間予防できるとされています。日本では2009年より一般の医療機関で接種することができるようになりました。

ただし、ワクチンは感染を防止するもので、子宮頸がんを治療するものではありません。また、全ての感染を未然に防げるわけではありません。ワクチン接種後も、定期的子宮頸がん検診を受けるようにしましょう。



# 乳がん<にゆうがん>



「乳がん」は、乳房の内部にある母乳を作る組織「乳腺」にできるがんです。女性がかかりやすいがんの第1位で、発生は30代から急増し、40~50代でピークになります。しかし、初期に発見・治療できればほとんどが治るがんです。

## ■乳がんは年々増加しています

乳がんは、月経の周期で分泌される「エストロゲン」という女性ホルモンが関係しており、月経回数が多いほど分泌量が増え、リスクが大きくなります。

近年、女性のライフスタイルが変化し、子供を産まない人や高齢出産が増加したことで、月経期間が長くなり、乳がんが増えていると考えられています。また、食生活の欧米化で肥満が増えたことも、原因のひとつとされています。



## ■乳がんにかかりやすい人とは

以下にあてはまる人は乳がんにかかりやすいとされています。

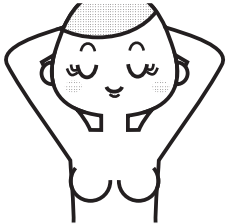
- ・初経年齢が早い
- ・閉経年齢が遅い
- ・出産したことがない
- ・最初の出産年齢が遅い
- ・授乳したことがない
- ・閉経後に急に肥満になった
- ・家族に乳がんにかかった人がいる
- ・長期間にわたってホルモン補充治療を受けている
- ・乳がんやほかの乳房疾患にかかったことがある
- ・アルコールの摂りすぎ

## 20歳を過ぎたら始めよう 乳がんセルフチェック

乳がんは、自分で見つけることができるがんです。

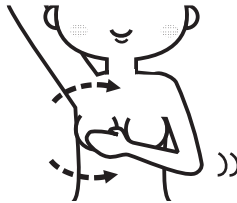
月に1回セルフチェックを行うことで、しこりやくぼみなどの乳房の変化に気づくことができ、早期発見に役立ちます。月経が終わった1週間後（乳房の張りがなくなってから）、閉経後の人は毎月、日付を決めて、定期的に行いましょう。

### ①鏡の前でチェック



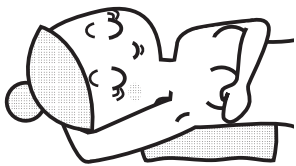
両手を上げて、乳房にくぼみやひきつれ、赤みなどがいないかをいろんな角度から観察します。

### ②しこりのチェック



指の腹で乳房の外側から内側へ滑らせるように触れたり、渦を巻くように全体に触れてみて、しこりがないかを確認します。

### ③仰向けでチェック



今度は仰向けに寝た状態で、②と同様にしこりのチェック。わきの下にも触れて確認してみましょう。

### ④分泌物のチェック



最後に左右の乳頭を軽くつまみ分泌物が無いかを調べます。（妊娠・授乳期を除く）

## 乳がん検診を受けよう

医療機関の乳がん検診では、セルフチェックではわからない初期のがんも発見できます。毎月のセルフチェックに加えて2年に1回は乳がん検診を受けましょう。

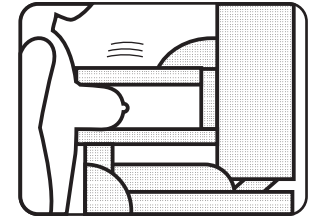
### 乳がん検診の内容

#### 視触診

医師が直接手で乳房に触れ、しこりを触診します。マンモグラフィと併用で行われます。

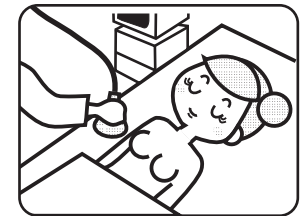
#### マンモグラフィ

乳房専用のX線検査です。板状のもので乳房をはさみ、平らに圧迫して撮影します。触診では発見できない、小さなしこりや乳がんを発見できるため、早期発見に有効です。乳腺が発達している人は、検出しにくいことがあります。



#### 超音波（エコー）検査

乳房に超音波をあて、内部からの反射（エコー）を利用して、異常があるかないかを診断します。放射線を使わないので、妊娠している方にも安心です。乳腺の発達にも影響なく検査できます。



厚生労働省では、40歳以上の女性に対し、2年に1回の乳がん検診を推奨していますが、乳がんの発生が多くなるのは30代からです。30歳を過ぎたら、ぜひ2年に1回の乳がん検診を受けましょう。